

2026年度 長岡大学シラバス

授業科目名	ゼミナール I 前 (Seminar 1)					担当教員	複数人	
2020-23 年度 入学者(20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	知識定着・確認型 AL/協同学修 型 AL
	2025-0-11-056	ゼミナール 科目	必修	1 単位	1 年次	前期		
2024-26 年度 入学者(24K-26K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	知識定着・確認型 AL/協同学修 型 AL
	2425-0-11-001	ゼミナール 科目	必修	1 単位	1 年次	前期		

① 授業のねらい・概要						
<p>ホームルーム的役割を持ちつつ、A)大学のスタディスキル基礎の習得、B)数学的能力と読解スキルの向上、C)「社会人基礎力」の向上、を目標とする授業である（詳細は下記）。</p> <p>A) (i)大学の授業の受け方の理解、(ii)大学の各種学習支援施設・サポートなどの活用法の理解など、(iii)レポート・レジюме作成法習得、を目指す。</p> <p>B)米百俵ドリル「数学」と「読解力スキル養成ドリル」の活用などにより、基礎の振り返りと定着を図る。</p> <p>C)ディスカッションやグループワーク等に取り組み「チームで働く力」などの醸成を目指す。</p>						
② ディプロマ・ポリシーとの関連						
専門的知識・技能を活用する能力/コミュニケーション能力/情報収集・分析力を育成する授業である。						
③ 授業の進め方・指示事項						
毎回、教科書、配布資料等により解説を行い、演習・グループワーク等にも取り組む。数学的能力の向上については、演習問題による理解の確認と知識定着を進める。						
④ 関連科目・履修しておくべき科目と履修に望ましい予備知識・技能						
「ゼミナール I 後」「キャンパスライフ入門」						
⑤ テキスト (教科書) ※授業で使用する。						
山田剛史・林創 (2011)『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房						
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。						
佐藤智明, 矢島彰, 山本明志編 (2014)『大学学びのことはじめ初年次セミナーワークブック 3訂』ナカニシヤ。 その他、新書リストの図書。						
⑦ 担当教員からのメッセージ (昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等)						
授業で取り組んだ各項目について、レポートやその他の課題等により随時習得度を確認しながら授業を進める。数学的能力・読解力の向上、スタディスキル基礎の習得、社会人基礎力の向上について、全ゼミで歩調を合わせて取り組んでいく。						
⑧ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安						
<p>(1)大学での学習法を説明できる。</p> <p>(2)与えられた課題に対してレジюмеないしレポートを作成できる</p> <p>(3)スピーチ、グループワーク等を十分こなせる</p> <p>(4)基礎的な数学と読解力の課題を解ける</p> <p>(5)社会人基礎力(「チームで働く力」(規律性等))を培い、授業ルールを守れる</p>						
⑨ ルーブリック						
評価基準		S	A	B	C	D
評価項目		到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(1)	大学での学習法	資料等に頼らずに、大学での学習法を説明できる	資料等に頼らずに、大学での学習法を説明できる	資料等を参照しながら、大学での学習法を説明できる	資料等を参照し、さらに教員の助言も受けることで、大学での学習法を説明できる	資料等を参照し、さらに教員の助言を受けても、大学での学習法を説明できない
(2)	レジюме/レポートの作成	課題に対して自身の力で期待以上の内容のレジюме/レポートを作成できる	課題に対して自身の力で十分なレジюме/レポートを作成できる	訂正・書き換えの指示を受けた書き換え等により、十分なレジюме/レポートを作成できる	訂正・書き換えの指示を受け、さらに教員の直接の助言を受けることで、課題に対して十分なレジюме/レポートを作成できる	訂正・書き換えの指示を受け、さらに教員の直接の助言を受けても、課題に対して十分なレジюме/レポートを作成できない
(3)	スピーチ、グループワーク等	与えられたテーマについて途中で資料等に頼ることなく、質疑応答にも臨	与えられたテーマについて、途中で資料等に頼ることなく、スピーチ、グル	与えられたテーマについて、途中で資料等に頼ること	与えられたテーマについて、途中で資料等に頼り、さらに教員の助言も受け	与えられたテーマについて、途中で資料等に頼り、さらに教員の助言を受け

		機応変に対応できるなど、授業で解説した水準を超えスピーチ、グループワーク等をこなせる	ープワーク等を十分こなせる	ワーク等をこなせる	ることで、スピーチ、グループワーク等をこなせる	ても、スピーチ、グループワーク等をこなせない
(4)	基礎的な数学的能力・読解力	資料の参照なしに、与えられた課題だけではなく応用問題も解ける	資料の参照なしに、与えられた課題を解ける	資料等を参照しながら、与えられた課題を解ける	資料等を参照しながら、かつ教員の助言も受けることで、与えられた課題を解ける	資料等を参照し、かつ教員の助言を受けても、与えられた課題を解けない
(5)	社会人基礎力	授業ルールを遵守をゼミ内で率先できる	授業ルールを遵守できる			授業ルールを遵守できない

⑩ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法

学習到達目標（評価項目）	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 取組姿勢・意欲	その他	合計
総合評価割合		8%	40%	20%	20%	12%	100%
(i) 大学での学習法			20%				20%
(ii) レジューメ/レポートの作成			20%				20%
(iii) スピーチ、グループワーク等				20%			20%
(iv) 基礎的な数学的能力・読解力		8%				12%	20%
(v) 社会人基礎力					20%		20%
評価項目「その他」詳細	米百俵ドリル スタンダードコース「数学」と「読解力スキル養成ドリル」の計12回への取組 (1%×12)						
フィードバックの方法	小テストの結果、レジューメ等提出資料に関する添削、発表内容についての個別の指導など、全体指導に加えて授業の内外で個別にも伝達する。						

⑪ 授業計画と学習課題

回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間(分) (※特別な持参物)
1	アイスブレイク、オリエンテーション、自己紹介	次回授業内容の予習課題への取り組み 120分
2	大学での学びの基本①(概要、施設等活用法)	予習課題への取り組み、米百俵ドリル① 120分
3	大学での学びの基本②(ノートのとり方)、スピーチの解説	ノート作成・スピーチ等の予習課題への取り組み、米百俵ドリル② 120分
4	PROGの活用法解説(講師:リアセック社谷川様)	配付資料による授業内容の復習、自身のPROGデータに関するワーク、米百俵ドリル③ 120分
5	大学での学びの基本③(図書館活用法、インターネット情報活用法など)	授業で取り上げた情報収集法により与えられた課題等に関する情報収集ワーク、米百俵ドリル④ 120分
6	リーディングスキルテストの実施、	レポート作成の準備、米百俵ドリル⑤ 120分
7	大学での学びの基本④:レポート作成法	リーディングスキルテスト結果の振り返り、レポート作成の課題への取り組み、米百俵ドリル⑥ 120分
8	大学での学びの基本⑤:レポート作成法、レジューメ作成法	レジューメ作成の課題への取り組み、スピーチ関連の課題への取り組み、米百俵ドリル⑦ 120分
9	大学での学びの基本⑥:レジューメ作成法、レジューメを使ったスピーチについて	レジューメを使ったスピーチ準備の予習課題への取り組み、米百俵ドリル⑧ 120分
10	基礎計算①、グループワーク、レジューメ・レポート演習、スピーチ演習等	基礎計算の予習課題への取り組み、スピーチ準備、米百俵ドリル⑨ 120分
11	基礎計算②、グループワーク、レジューメ・レポート演習、スピーチ演習等	米百俵ドリル、基礎計算テストへの準備、レジューメ・レポート課題、スピーチ準備、米百俵ドリル⑩ 120分
12	基礎計算③、グループワーク、レジューメ・レポート演習、スピーチ演習等	基礎計算テストへの準備、レジューメ・レポート課題、スピーチ準備、米百俵ドリル⑪ 120分
13	基礎計算④、グループワーク・スピーチ実習等	基礎計算テストへの準備、スピーチ準備、米百俵ドリル⑫ 120分
14	基礎計算⑤、グループディスカッション①(解説・テーマ設定等)	基礎計算テストへの準備、グループディスカッション準備 120分
15	グループディスカッション②(準備、試行)	グループディスカッション準備 120分

⑫ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型 AL/協同学修型 AL を採用する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

実務経験と授業科目との関連性